



「大学でも続けていきます」と意気込む清水さん

輝いています

関東高等学校少林寺拳法選抜大会3位

ひと

しみず まゆこ 清水 万悠子 さん

気持ちを切らさず前を向いて

技

や体力だけでなく、精神も鍛えられました」と語る、和光国際高校3年生の清水万悠子さん(17歳・南町2丁目)。

昨年12月の関東高等学校少林寺拳法選抜大会の女子団体演武の部で3位に輝き、今春の全国大会への切符を手にしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で全国大会は中止に。更にはインターハイも中止となり、高校生として出場できる公式大会はなくなっていました。そうしたなかでも、清水さんの瞳は輝きを失っていません。高校進学を機に新しいことと、少林寺拳法部を見学すると、その迫力や力強さに惹かれ入部しました。二人一組

の組手により、実践的な技術や表現力を高める少林寺拳法の基本は、突きや蹴りなどの反復練習。つらい稽古の日々でしたが、顧問の助言を励みに精進してきました。そのなかでも、「今、この一瞬一瞬をたいせつに」との言葉に感銘を受け、それからは膝をしつかり伸ばすなど、一つ一つの動きを見直すとともに、仲間と意見をぶつけ合い、よりよい演武を模索する積極性が生まれました。清水さんのこうした変化は部内に一体感をもたらし、関東大会3位入賞の一因ともなりました。目標としていた大会が中止になったときは、しばらくにも手につかない状態でした。それでも、「今できることを」と、先輩に練習の様子を動画を送ってもらい、アドバイスをしたり、家でできるトレーニングを教えたりしています。後輩のやる気に触れることで、しだいに気持ちも前向きに。大学でも少林寺拳法を続けていく意欲が湧いてきました。「昨日の私に羨まれる存在になるため、まずは行動ですね」と、清水さん。その姿勢はコロナ禍で落ち込む仲間への心強いエールとなるでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

-No.49-



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

明治10年(1877)にイギリスから来日したジョサイア・コンドルは、現在の東京大学建築学部の教授、建築家として活躍し、「日本近代建築の父」と呼ばれただけでなく、暁斎に日本画を学ぶなど、日本文化に深い興味を持っていた。本書はコンドルが日本の生け花を英語で紹介した本です。明治22年(1889)に日本アジア協会で行った発表が元になっており、月岡芳年と暁斎の娘・暁翠が挿絵を手がけました。本図は暁翠が描いた、花菖蒲を生ける夏のすがすがしい室内の様子です。

河鍋暁斎記念美術館 6月24日(水)まで 「ジョサイア・コンドル没後100年記念 コンドルが愛した日本の花鳥風月」展 同時開催 「暁斎プラスワンシリーズ34 暁斎を彩る一うちわ絵色差し」展

開館=午前10時~午後4時 休館=木曜日・毎月26日~末日 ところ=南町4-36-4 ※新型コロナウイルスの感染防止対策等により、予定が急に変更される場合があります。ホームページを御覧ください。 入館料=一般600円 65歳以上500円 高校生・大学生500円 小・中学生300円 詳細=同館(☎441-9780)



ジョサイア・コンドル著 「日本の花と生け花の本」より 暁翠による挿絵 「夏の生け花のある日本の室内」 1891年刊



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください